

### 第3回 千代田区文化芸術プラン（第四次）策定検討会議議事録（要約）

- 日時：2019年9月20日（水）10：00～11：20
- 会場：千代田区役所 4階会議室A
- 出席状況：出席委員名11名、欠席委員9名
- 事務局：地域振興部文化振興課3名、受託支援業者2名
- 議題：（1）第四次千代田区文化芸術プランの構成について  
（2）第四次文化芸術プランの骨子案の検討について

（議事要旨）

#### 1. 開 会

#### 2. 議 題

##### （1）第四次千代田区文化芸術プランの構成について

＜事務局より資料1説明＞

委 員：第三次プランの文化芸術振興の方向性と施策構築の視点を合体させて、第四次プランの計画の方向性にするとのことだが、改めて理由を説明いただきたい。「地域性・文化芸術資源の活用」と「計画的・継続的事業の展開」が合体して「すべての区民が文化に触れる」に集約されたのか、内容面での合致は図られているのか。

事務局：第三次プランでは、文化芸術振興の方向性と施策構築の視点の下に、施策、プロジェクト、主な取組みと連なってくるが、方向性と視点の関係性が区民にとっても分かりづらいという認識があった。前回の検討会議でもご意見をいただいたこともあり、方向性は誰が見ても分かる表現にしていこうと整理した。

委 員：資料で用いられている「合体」という言葉が分かりにくいかもしれないが、数的にも多く分かりづらかったものを少なくして、シンプルに分かりやすく整理したものが「計画の方向性」だと理解してもらいたい。すべての要素を網羅したのではなく、改めて計画の方向性は何かを考えたときに、この3点を挙げたと理解いただきたい。

座 長：第三次プラン策定時は東京2020大会の開催も控えていたため、視点に盛り込んだという流れもあった。第四次プランは東京2020大会も終わるので、集約していきつつ、2つの中から重要なポイントかつ大きな視点をあらためて整理したという理解である。

委 員：第三次プランの概要版では文化芸術振興の方向性が大きく打ち出されている。そのあとに基本目標と重点目標という構成である。第四次プランにおいても同様の位置づけだとすると、「すべての区民（昼間人口・夜間人口）が文化に触れる」など

の3つの方向性はやや弱くなったように感じる。内容として不足しているのか、表現だけの問題か、何か千代田区としての特徴を追加したほうがよいと思った。

事務局：第三次プランの時の経緯や考えもあり、作り込みの見せ方もあると思う。区の条例に基づいて、基本目標や重点目標は固定となり、これに基づいて方向性や施策を展開していく。

座長：第四次プランの概要版を作成するには、プランの必要事項はすべて盛り込んでおけば大丈夫だと思う。

委員：今後5年間を見越した際に、この3点でよいか。どのようなキーワードが入っているとよいのか。目新しくなくても、千代田区の独自性や、この期間ならではの部分があるのではないか。

委員：構成としては第四次プランの方が分かりやすい。ただ、方向性には、千代田区の魅力発信を計画の大きな柱にした方がよいと思う。前に話したように、日本は経済的に弱体化しているとはいえ、人口も多く、文化的には豊かである。外国人にとっては魅力であり、そのために観光に訪れているのだろう。その魅力は江戸時代から築かれてきたものも多いが、その拠点は江戸であり、今の東京である。千代田区は今では下町というイメージもないが、当時は人口も多い地域だった。また、明治維新の担い手が学んだのが千代田区にあった安積良斎塾であり、吉田松陰をはじめ様々な人々が学んでいる。もし、ここで学んだ人がいなければ、今の日本の姿も異なっていたのではないかというものが、幕末の時代の千代田区にはあったということである。それ以外にも区内には世界遺産候補があるため、アピールしていくことも進めていきたいと思っているが、第四次でこれまでと異なる目玉があるとよいと思う。骨子案には「ちよだの魅力の共有」という施策が位置づけられているが、「共有」よりも、千代田区の文化を見直し、もう一度発信するという意味で「発信」に取り組んでもらいたい。

座長：「発信」というのは具体的にどのようなイメージか。

委員：例えば、過去に千代田区にあった塾で作られた文化が実際に、近代日本を作った原動力の一つであると、そのような文化も見つめ直し、発信していく必要があると考えている。資料にある「観光・まちづくり・産業など他分野と結びつく」という視点とは異なると思う。かつて千代田区にあった文化を知らしめることができるように国内外に発信していく観点が必要ではないか。

座長：施策としては「ちよだの文化遺産の継承・発展」に該当するようにも思うが、引き続き検討していきたい。

委員：基本目標と重点目標は変わらないが、計画の方向性は時期に応じて変えていくという理解でよいか。変えていく上では、このプランは誰に向けたものなのかと考える必要がある。区内で施策を進めるためには網羅的で便利なものになっていると思うが、区民からすると同じようなものが羅列されているようで分かりづらいので

はないか。

- 委員：プランの概要版は区民に向けたものである。行政はもれなく記載しようとするが、分かりやすさを重点的に考えると、基本目標と重点目標をまずは前面に打ち出して、計画の方向性についての詳細は記載しなくてもよいかもしれない。計画そのものには必要だと思うが、見せ方については工夫ができると思う。
- 委員：カラーで印刷して作成しているのに、区民に分かりづらく、何が変わったのかも分かりづらい。
- 委員：概要版は区民や区に来るすべての人が対象になると思うので、区の条例を説明するのではなく、千代田区が文化振興についてどのように考えており、どのように発展していこうと考えているのか、文化振興の考え方をシンプルに発信することを心がけてもらいたい。昼間人口にも配ることを考慮して、A4サイズ1枚程度で伝えることを絞った方がよいのではないか。
- 委員：手に取る方に応じた情報発信を行う必要があるのだと考えている。今ご意見をいただいているのは、千代田区の文化芸術プランについて知りたいということではなく、文化芸術振興の内容のようなものを伝えるための情報発信のあり方に関することだと思う。一方、プランそのものを伝えようとする、やはり基本目標、重点目標、計画の方向性などを網羅したものでなければいけないと思う。
- 委員：第四次プランでは区民と進めていきたいという内容を分かりやすく示していくべきだと思う。ポイントを絞って分かりやすいものにするべきだと思う。
- 委員：第四次プランに関する情報発信についてはまたご意見をいただきたい。今回はまず、プランの内容を検討していただきたいと思う。
- 委員：東京2020大会が終わったときの不安感を感じているなかで、千代田区の魅力を再発見していくことの良さを捉え直すことも大切である。東京2020大会までの5年間よりも、その後の5年間のあり方や終着点を探ろうとすることも第四次プランでは考えていくことも重要である。そのような観点から魅力に関する方向性も盛り込んでいけるとよいと思う。

## (2) 第四次文化芸術プランの骨子案の検討について

### <事務局より資料2説明>

- 座長：骨子案ということで、施策、プロジェクトについて何か意見はあるか。
- 委員：先ほど発言したように、「千代田区の魅力の発信」を方向性に入れるとすると、施策5の「ちよだの魅力の共有」は「共有」よりも「発信」が望ましい。また、プロジェクトの名称を見ると自治体に関係ない文言であるため、千代田に由来する文化の発信、千代田区内にある世界遺産の登録を入れた方がよいと思う。
- 委員：施策6「次世代を担うこども・若者の創造力育成」については、若者に大学生も含めて考えてもらいたい。千代田区に通う学生は多いので、千代田区の魅力を学ぶよ

うな機会のある大学があってもよいと思う。

座長：大学との連携は千代田学などで現在も取組まれているが、より充実させていく方向で検討いただきたい。また、地域コミュニティや歴史文化に関わるような機会があってもよいだろう。行政では取組めなくても、区内大学や専門学校の教員に協力してもらおうような働きかけがあってもよいと思う。千代田区には大学も多いので、学生を育てることをテーマに挙げてよいと思う。

委員：資料説明で「区民目線」という言葉が用いられていたが、施策7「人材の発掘と育成」というのは行政目線であると感じる。例えば、「積極的な参加の呼びかけ」などでもよいのではないか。千代田区は区民等と一緒にやっっていこうと考えているなら、参加という言葉はよいと思う。

委員：参画という言葉もある。

委員：施策6で用いられている「若者」はやや抽象的だと思う。

座長：施策では「大学生」という言葉は使いにくいと思う。柱の中の文言を変えるには、専門学生や就業者など、様々な立場があるので、配慮した方がよい。説明文で書くのでよいと思う。

委員：「次世代の創造力育成」だけでもいいのではないか。次世代に子ども・若者は含まれるだろう。

座長：ぜひ検討いただきたい。ところで、新しい取組みについてなど、庁内での検討はどのような状況か。

事務局：次回の検討会では、第四次プランでの主な取組みを提案したいと考えている。

委員：構成は組み替えられているものの、主な取組みは変わっていなかったので心配していた。ただ、いまの説明ではプロジェクトまでの整理であり、次回、主な取組みが提案されるということが分かった。検討の結果、同じような内容になるかもしれないが、ここでの意見を踏まえて、第四次プランならではの取組みがあるとよいと思う。

委員：何か取組むべき内容があれば、この委員会でもアイデアをいただければと思っている。実際にご意見いただいたもので取組めていないものについては、区の文化事業の組み立てとして、今後取り入れるべきものも出てくるかもしれない。それも含めてご意見をいただきたいと思う。

委員：他の自治体での取組みを調べた上で、何か提案できるように準備したい。

委員：区民や在勤者と区が、文化芸術振興について意見交換をするような機会はあるのか。プランを策定して終わりではなく、日々豊かにしていくべきだと思う。区民や在勤者、来訪者が意見を区に伝えるチャンネルはあるのか。

委員：個別の事業で意見を聞く機会や文化イベントなどで意見を聞くことはある。

委員：地域コミュニティの取組みのなかで、区民や事業者、大学生、NPOなどの団体が集まって、様々なコミュニティを形成する一環として、意見交換する場がある。文

化振興においても場を設けることは可能である。

委員：そのようなチャンネルが構造的に機能するようにした方がよいし、そもそもチャンネルの存在を周知した方がよい。

事務局：プラン策定後には、プランの取組みの進捗をチェックし、評価する会議を開催している。そのような場でも意見を頂き、より良いプランにしていこうとしている。

委員：いまの意見は、会議よりも広範囲に意見を聞くという内容なので、会議以外にも場を設けた方がよいだろう。手法としては既に取組んでいるものがあるので活用できる。

委員：既に手法があるなら、文化芸術振興でもチャンネルをつくる方がよいと思う。既存の仕組みがあるなら、パイプを太くすることで、日常的に意見を聞けるようになるよ。

委員：SNS上でそのような機会について情報発信は行っているのか。

委員：今は取組んでいないが、ツールは既にあるので活用したいと考えている。

座長：文化芸術は評価が難しく、芸術的なことだけでなく、日常生活として心が豊かになることや他人の気持ちを思いやれることも含まれている。まち中で文化的な豊かさに触れることでそのようなことにも効果があると考えている。

委員の皆さんも取組みにはより関心が高いと思うので、次回検討会に事務局から提案いただき、協議したいと思う。

今回の方向性、施策、プロジェクトに関しては、方向性に千代田区の過去の歴史に関する発信を加えること、もうひとつは区民目線の文言を使うということが意見として挙げられた。あと江戸しぐさについては、言葉を入れ替えるという対応としたい。このような整理でよいか。

(異議なし)

### 3. 委員アンケート②について

事務局より、委員アンケート②について説明を行い、10月4日〆切の旨を伝えた。

### 4. その他

事務局より、次回検討会議を12月頃に開催する旨の説明を行った。また、今後のスケジュールについて説明を行い、プラン策定期を来年度とすることを報告した。

### 5. 事務連絡